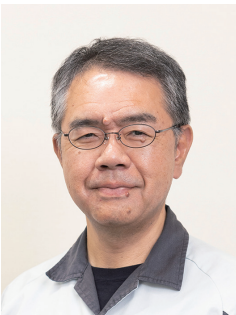


目標3 2027年度CO₂排出量 (Scope 1 + 2) 30%削減 (2020年度対比)

VOICE カンパニーを超えた協力体制で実効性あるCO₂排出量削減



2030年度目標 (Scope 1+2 : 50%削減、Scope 3 : 25%削減 (2020年度対比)) を踏まえ、2027年度にScope 1+2で30%削減という2030年度目標の達成には必須のマイルストーンを設定しました。2024年度の実績は単年度の成果もあり、基準年比33%削減となりましたが、今後もこの水準が続く

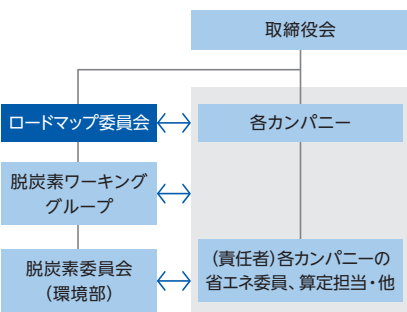
訳ではなく、2027年度、2030年度目標達成にはさらなる取り組みが必要と認識しています。

前中計 (2022年度～2024年度) では各事業一律の削減率目標

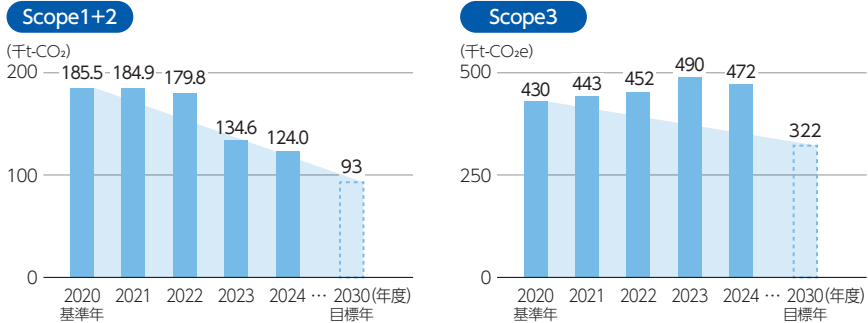
を設定していましたが、カンパニー (事業部) ごとにCO₂排出量削減の難易度も異なり進捗の違いが出てきました。そこで、お互いの事業間でCO₂削減量を補完する仕組みを構築すべく、横串の「ロードマップ委員会」を組織しました。委員会のメンバーは「各カンパニー内の脱炭素を牽引でき、かつ上層部にも進言できる」人材を選任し、それぞれが事業部視点からグループ全体へと視座を高め、お互い補完しながら実効性の高い取り組みを進めていきます。また、これまで環境部主導の脱炭素推進体制から徐々にカンパニー主体へ移行することにより、脱炭素の取り組みを受け身から主体的にポジティブに捉え、ビジネスチャンスにつなげられるマインドへの転換を図っていきます。

石塚硝子株式会社 環境部 環境グループリーダー 中島 剛

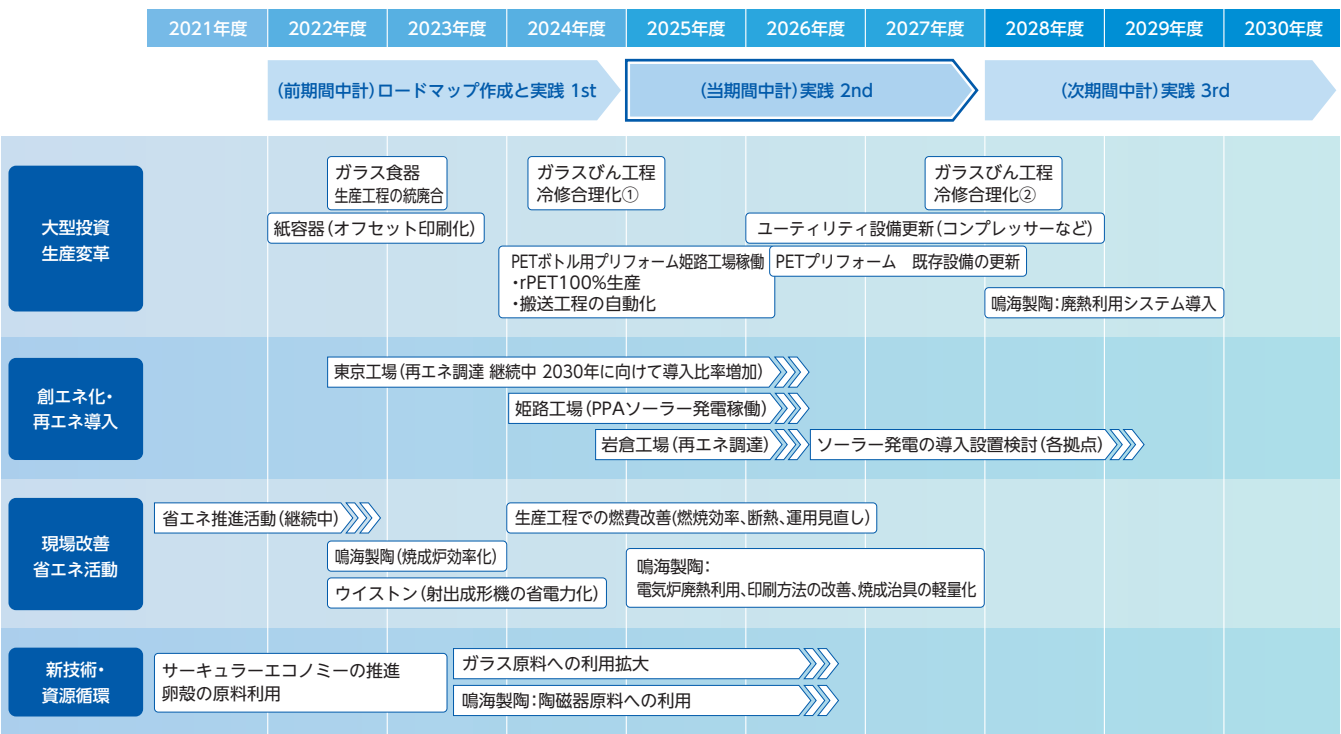
ロードマップ委員会体制図



CO₂排出量削減実績



削減ロードマップ



目標4 ペーパーレス化の推進・アナログ作業からの脱却 (ラクの追及)

石塚硝子におけるDXの取り組みは、①古い慣習からの脱却 (これまでの常識を変えよう) から始まり、②デジタル化の推進 (できることから始めよう) に進み、③ラクの追及 (余力を生み出そう) というステップをひとつの標準モデルと考えています。その結果、従業員が新しい業務に挑戦する機会が増えることを期待しています。

石塚硝子グループのサステナブル経営
中期経営計画の基盤となるサステナブル経営の考え方と社会に提供する価値

石塚硝子グループは、「企業の存続は社会に対する貢献・社会の持続的な発展とともにある」という考えのもと、企業価値向上と社会に貢献できる企業を目指しています。中期経営計画は、そうしたサステナブル経営の考え方を基盤に策定され、石塚硝子グループの指針となっています。

